

短期大学部 救急救命学科 企画 第2回 弘前市立文京小学校 キッズハローワーク

報告者：鳥羽 栞¹⁾、若松 淳¹⁾

1. 概要

弘前市立文京小学校（以下、文京小学校）4年生を対象に弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科（以下、本学）において救急救命士の職業体験および訓練施設の見学を行うキッズハローワークを開催した。当日の実際のプログラムの内容と参加した児童の様子、本学学生の対応に加えて、後日届いた参加児童の感想文の内容を報告する。

実施日：令和元年10月29日（火）

実施場所：共用棟およびUSAR棟（Urban Search And Rescue, 救命・救助実習棟）

実施内容：心肺蘇生法の講習、クライミング体験、USAR棟体験、施設見学

対象：文京小学校4年生2クラス 56名（内訳 男児22名、女児34名）

引率：文京小学校教員6名

対応した学生：本学2年生33名

2. キッズハローワークについて

青森県弘前市で小学生を対象に毎年行われている職業体験イベントが「おしごと体験広場キッズハローワーク」である¹⁾。おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会が主催し、弘前市の市民参加型まちづくり1%システムを活用して、小学生を対象にさまざまな学校、企業、団体などの職業体験ができるイベントとなっている。これからの社会を担う子供たちが、さまざまな職業を体験することで、その職業について知るとともに、人々が働くということから成り立っている社会のしくみを感じ取ってもらうことを目的としている。

学研教育総合研究所が発表した2018年9月調査の小學生白書によると、小学生男子のなりたい職業の3位に

警察官、11位に消防士が入っているものの救急救命士は圏外となっており、小学生女子のなりたい職業2位の看護師に比べて、公安職としても医療系の職としても知名度が高くないことがうかがえる²⁾。そこで、小学生時から救急救命士という職業への理解を深めることは、救急救命士としての適性を備えた人材を育成し、救急救命士の質の向上につながると考えられる。救急救命士キッズハローワークは、小学生を対象としたキャリア教育の一環として、児童が社会の一員として働くことについて考えるきっかけになるとともに、職業としての救急救命士の認知度の向上が期待できる。以上のことから、本学でも2018年にはじめて救急救命士の職業体験イベントを開催した。その際に児童のみならず、引率教員、保護者からも好評であったため、今年度第2回を開催する運びとなった。

3. キッズハローワーク各プログラムについて

(1) 当日のスケジュール

当日のタイムスケジュールは表1のとおりである。教室の収容人数や教材数の関係から2クラスが交互に第2会議室とUSAR棟を移動して体験を行った。

(2) オリエンテーション

児童たちは弘前駅から弘南鉄道弘南線を使用し、本学最寄りの駅である運動公園前駅から徒歩で来校した。共用棟1階第2会議室内に全員が入室後、本学の齋藤三千政学科長よりキッズハローワーク開始の挨拶があった。その後、当イベントの概要と注意事項について担当教員から説明があった。（写真1）

(3) USAR棟見学

本学には都市型災害捜索救助の訓練を行うための救命・救助実習棟が設置されており、実習棟内部には模擬

1) 弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科（〒036-8104 青森県弘前市扇町2丁目5番地）

表1 当日のタイムスケジュール

時 間		プログラム	
~9:30	20分	児童移動・受付（共用棟1階第2会議室前）	
9:30-9:35	5分	挨拶（救急救命学科学科長 齋藤 三千政）	
9:35-9:45	10分	オリエンテーション（共用棟1階第2会議室）	
9:45-9:50	5分	移動・休憩	
9:50-10:35	45分	1組	2組
		1階第2会議室	1階 USAR棟
		心肺蘇生法について	クライミング体験 USAR体験
10:35-10:40	5分	移動休憩	
10:40-11:25	45分	2組	1組
		1階第2会議室	1階 USAR棟
		心肺蘇生法について	クライミング体験 USAR体験
11:25-11:45	20分	施設・ヘリコプター見学	
11:45-12:30	45分	昼食（共用棟2階学生食堂）	
12:30		解 散	

半壊家屋がある。児童たちは、実習棟の高い天井と半壊家屋の壊れたコンクリートなどに驚いている様子で、「すごい」など歓声をもらしながら周囲を見渡していた。半壊家屋前の実習スペースには本学学生が整列し、文京小学校の児童代表から本日の職業体験実施に際しての楽しみにしていた気持ちと対応する本学学生に対するお礼の言葉があった。（写真2）

USAR棟内には訓練用に救急用自動車（以下、救急車）



写真1：本学教員の注意事項を聞く児童たち



写真2：本学学生に児童代表が挨拶「本日はよろしくお願ひします」

が2台用意されている。学生の案内の下、児童たちは救急車内に自由に出入りして、初めての救急車搭乗を経験し、車内にたくさんの医療機器があることに驚いていた。医療機器を指さしながら、「これなに？」と質問する児童たちに、担当学生は「心臓の動きをみる機械だよ」などと丁寧に平易な言葉で解説を行っていた。成人にとっては狭く感じると思われがちな車内だが、児童たちは「広い！」という感想を話していた。救急車の運転席、助手席にも座り、救急車の運転手の視界を体験していた。（写真3）



写真3：救急車内に乗り込み車内を見学

合わせて、児童たちは救急隊員役となり救急車へ模擬傷病者の搬入も体験した。学生が実習で使用しているストレッチャーに模擬傷病者として児童が横たわり、学生が固定の方法を実演した。ストレッチャーを持ち上げる動作も、学生が安全を確認し支えながら児童たちに作業させると「重い！」と声上がり、人を持ち上げる際の重量を感じて驚いている様子だった。児童を乗せたストレッチャーを救急車に搬入させると、脚が折り畳まれ車

内の防振架台上に収納されることに感心して、もう一度見学したいと希望する児童もいた。(写真4)



写真4：ストレッチャーで搬送される傷病者役と搬送する救急隊員役を体験

(4) クライミング体験

クライミングウォールでは、市内でも珍しいオートブレイシステム(自動確保装置)2機と、小柄な児童でも安全に行えるように準備した小児用フルハーネスを使用して、ほとんどの児童が初めての本格的なクライミングを楽しんだ。中には成人でも難しいウォールを登りきる児童もあり、そのたびに歓声が沸き起こっていた。(写真5)



写真5：本学教員や学生の指導の下でクライミングウォールに挑戦

(5) トレーニング設備の体験

USAR棟内では、学生が体力トレーニングに使用するジム設備の1つであるストレングスマシンの体験も同時に行われた。児童がこのようなストレングスマシンを体

験する機会はないと考えられ、珍しそうに学生の説明を聞いていた。学生は、100kgを超えるウェイトを用いて自身がトレーニングする様子を見せ、負荷の大きさに驚いている児童が多かった。(写真6)



写真6：トレーニング設備のストレングスマシンを体験

(6) 心肺蘇生法講習

第2会議室では心肺蘇生法の講習が行われた。教員が心肺蘇生とAED(自動体外式除細動器)に関するビデオを上映し、高校生の心臓突然死の例に合わせてAEDがあれば助かったかも知れないという映像が流されると、涙ぐんでいる児童の姿が見られた。その後、AEDによって心停止から社会復帰した高校生の例が紹介されると児童たちは真剣なまなざしで映像を見つめていた。(写真7)



写真7：心肺蘇生法の大切さについてビデオを見ながら学ぶ

ビデオ鑑賞後、児童たちはまず心臓の位置を知るために、ヒトの胸部内臓の配置を学習できるジグソーパズルに取り組んだ。心臓や大動脈、上大静脈などの位置についてパズルを解きながら学んでいく時間であったが、児童たちはなかなか苦戦しており「むずかー」という声が上がっていた。パズルが解けない児童には学生が心臓と血管の配置を説明しながら正解に導いていた。(写真8)

次に、児童たちは一般に心臓マッサージと呼ばれる胸

骨圧迫の体験をした。適切に圧迫するとLEDランプが点灯する心臓の模型が各児童に配布され、1分間に100～120回のペースで圧迫を続ける胸骨圧迫について説明が行われた。学生が実演した後、児童たちが挑戦したが、力が足りずにランプが点灯しない児童が多く、さらにまっすぐに押すことができないため、心臓の模型がずれて落ちてしまう児童もいた。1分間力を込めて押し続ける作業は児童たちにとってかなり大変に感じられたようで、学生がデモンストレーションとして行った、正確で連続した胸骨圧迫に感心している様子だった。(写真9)

続いて、AEDの使い方の講習が行われた。児童たちはAEDのパッドとコネクタを接続したり、実際に電気ショックのボタンを押したりしながら、AEDの操作方法について体験した。AEDをはじめて触るという児童も多くみられ、最初は恐る恐る手に取る様子も見られた。その後、学生のサポートのおかげで使い方を理解し、「突然倒れた人の命を助ける機械」という認識から繰り返し操作を復習する児童もいた。(写真10)



写真8：心臓の位置を理解するための胸部ジグソーパズルに挑戦



写真9：心肺蘇生法について学生の指導を受ける

(7) 昼食

前回のキッズワークでは昼食時間の確保のため、見学の時間があまりとれなかったことから、今回は児童が昼食を持参し、本学で昼食を取るというタイムスケジュールを設定した。キッズハローワークのすべてのプログラム体験後、共用棟2階の学生食堂にて、児童達は各自持参した昼食を取った。(写真11)

その後、教員の引率で帰路に就いた。その際には、送り出す学生に対して、児童達から自然と「おにいさん、ありがとう!」「また来たい!」といった声のでていた。

4. キッズハローワークを終えて

令和元年11月20日に文京小学校校長榎引健先生より施設見学のお礼状および4年生担任平野由美子先生がとりまとめた児童たちの感想文が本校に届けられた。その一部を抜粋して紹介したい。

- 心配蘇生法は力がいり大変でした。AEDは正しく使えるように学びました。(中略)担当の生とさんも優しくわかりやすかったです。救急救命士をめざして



写真10：はじめて触るAEDにドキドキ



写真11：最後にみんなで本学食堂にて仲良くお弁当のお昼ご飯

いる皆さんこれからもがんばってください。

- 救急車の近くには、目をつぶっている重い人ぎょうがありました。どうやら大人一人分の重さだそうです。そして人を乗せるの（注：ストレッチャー）に乗せて、上に上げるのですが、とても重くて無理でした。（中略）心に残ったことは、ウォールクライミングです。初めてだけど、半分くらいのほれてうれしかったです。もう1つAEDを体験できたことです。弘前医療福祉大学短期大学部でいろんなことを学べてよかったです。
- （胸骨圧迫について）やさしい学生さんが、アドバイスしてくれたので、いっぱいランプが光りました。とてもうれしかったので何回もやりました。何回もやっているうちに手をいたくしましたが、おもしろいという気持ちのほうがつよかったので続けました。とても楽しかったです。
- ぼくは、初めて心ぞうマッサージを体けんしてみ、初めは、白い小さいの（注：LED）が光るのがわからなかったけど、学生さんが教えてくれて実さいにやってみて全然光らなくてむずかしかったし、かたくて大変でした。（中略）そして学生さんが教えてくれたとおりにやっていったら、しっかりとしたりズムで三十回がベストだということがわかりました。そして一分間で百二十回もやるのがわかって大変だと思いました。（中略）ぼくは、もしもたおれた人がいたらしっかりとたすけられるように役にたてるようにがんばりたいです。
- おもりをもちあげる道具がありました。私もやってみたくてならびました。お兄さんが『自分100kg持てるよ〜』と自まんしていました。私は最こう35kg持てました。自まんしていたお兄さんが一人で100kg持ち上げていました。それを見た私達は『すごっ！』『え〜』とさわぎました。（中略）来年の4年生もしょうらいのゆめが見つかるといいです。
- 救急車にのって中をみたら、すごく広くていろいろなものがありました。心に残ったことは、心肺そ生でAEDをやっていつどこで人がたおれているかわからないので、もしもたおれている人がいたらAEDで練習したようにやれば人をたすけることができるかもしれません。
- ちょっと救急救命士をやってみたくくなりました。
- この体験でぼくの夢はとっても広がりました。医療福祉大学短期大学部の人たちは、いつもこういうのを毎日つづけているのが感動しました。
- 心ぞうマッサージはすごく力がひつようです。でも、もしもたおれている人がいて、自分つかれるか、その人が死んでしまうか、考えると助けたい！！という

気持ちになります。（中略）一人でも多くの人を助けてあげたいと思いました。それに、大学の人はおしえるとき、ていねいにやさしくおしえてくれたのでうれしかったです。体の中やAEDの使い方など知らないことが知れたので、よかったです。初めてやることばかりだったけどすごく楽しかったです。

- パズルで体の中にある物がどこにあるか考えながら、とても楽しくできました。（中略）次に見たどう画では、少し目がうるうるしてました。そして私はこれからいつ目の前で人がたおれても今日学んだことを生かして、いつなにかおこってもほくはルールを守ってがんばって人を助けたいです。
- 一番楽しかったのは、きゅうきゅう車に乗ったことでした。中は、たくさん物があり、人を助けるきょうな体験ができました。（中略）心ぞうは左にかたむいていたり、青と赤の線（注：静脈と動脈）の名前とそのやくわりを教えてくれました。自分の体のしくみがわかりました。（中略）今回はとてもきょうな体験ができ、とても楽しかったです。人を助けるのは、むずかしいことだと思いました。

感想文には、担任の先生のご指導のおかげで、本学の名称を多くの児童が正確に漢字で記載しており、自身の生活する弘前市内にこのような短期大学があるということが児童はもちろんのこと、児童から職業体験の話聞いた保護者にも広く認知されたと予想される。引率教員からも本学の他学科について質問があり、医療系資格を取得できる大学および短期大学部としての本学の知名度向上につながったと考えられる。また、今回のキッズハローワークには、児童と引率教員の他に数名の保護者も同行しており、本学の施設の充実度に感心されていた。

当日は、本学2年生が救急救命シミュレーションⅣの講義の一部として児童の対応をしたが、学生の実演をみた児童が「おにいさん、かっこいい！」と声をあげる場面もみられた。多くの児童が感想文にて、本学学生の対応の親切さ、やさしさについて触れており、同行した榎引健校長先生からも「学生の対応（教え方）が本当に素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいた。講義、実習で身につけたコミュニケーション技術を活かして児童に対して丁寧に接して活動した学生達を高く評価したい。

今後も、このような取り組みを通じ、救急救命士の活動に対する啓発を継続して行う予定である。ひいては、このキッズハローワークを体験した小学生が、進んで本学を目指して入学してくれるように期待したい。そのためにも、救急救命士教育施設として、常に即戦力となる救急救命士を教育し、“弘前に本学あり”と広く知られるような教育と広報活動を行っていくよう努めたい。

5. 役割分担

責任者	若松 淳
挨拶	齋藤三千政
USAR棟体験	若松 淳、齋藤 駿佑
心肺蘇生法	中川 貴仁、鳴海 圭佑
チューター	救急救命学科2年生(33名) 阿部優羽馬、小山 景衣、葛西修羅斗、 金谷 誠峰、蒲田 知哉、上家 利菜、 工藤 佑大、久保 浩介、小関 拓海、 斉藤 瑠樹、桜庭丈太郎、佐々木飛人、 佐々木啓嵩、佐藤 翼、佐藤 友飛、 神 凱都、神 満風、鈴木 一真、 鈴木 裕哉、関 優太、田畑淳之介、 月館龍之介、辻 大樹、照井 陸、 長澤 大我、中田 龍成、中村 翔、 成田 裕治、野呂 旭、藤原 昂太、 向谷地毅治、山形 邦英、山本 詩音
記録	鳥羽 栞

6. 文献

- 1) お仕事体験キッズハローワークFacebook <https://www.facebook.com/hellohelloworlds/> (最終閲覧日2019年12月20日.)
- 2) 小学生白書Web版2019年調査 学研教育総合研究所 <https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/201809/index.html> (最終閲覧日2019年12月20日.)